

あるかぼーと・唐戸エリアマスタープランデザイン会議

第 1 1 回 議事概要

日時	2024年7月12日(金) 13:30~16:30
場所	市役所西棟5階大会議室
参加者(委員)	HBP・KAM 共同事業体：吉田、木村隼、木村大、清原、安本、井上、有賀 専門家：熊谷、榎本、大橋、長町 地域事業者：郷田、阿部、原田、立川 事務局：北島副市長(事務局長) エリアビジョン推進室 内田、田中、平山、村上

1. 推進会議(第3回)の振り返り

下関市イノベ課より推進会議における各委員の意見等を説明

- 推進委員からの意見にあったとおりであるが、観光客目線なのか、市民目線なのか良くバランスをとりながら進めていく必要がある

2. 交通・駐車場に関する検討について

下関市イノベ課、榎本委員より資料に基づき説明の上、議論

- 唐戸市場横臨時駐車場のアンケートでは利用者の支払意思は500円~1000円が9割を占めていることから、一旦1,000円とし利用状況を確認したい
- 滞在時間は8割近くが2時間以内である。1000円にすることで滞在時間が延びることも期待できるし、回遊性が高まれば1000円以上の価値を生み出す。ただし、車の回転率が悪くなるため、渋滞緩和という意味では逆効果かもしれないが、これも検証を進めていく
- 値上げの時期であるが、夏休み期間中に値上げありなしを行い渋滞状況を把握したい。お盆期間中は相当な観光客が訪れる。周辺の駐車場との料金バランスが崩れることから混乱を招き渋滞を助長する懸念があるとの意見があり、8/24(土)からの実施で調整することを確認
- 6月からバスの待機場として岬之町へ誘導しているが、バス運転者がカモンワークで食事ができない、迎えに来るときに渋滞にはまる、休憩時間がないなど2重苦となっている。バス運転手もケアする必要があるのでは。ずっとバスを排除するのは乱暴ではないか。繁忙期は今の運用でも良いと思うが、閑散期にはバスを駐車させるなど柔軟に対応すべき。
- 例年に比べ渋滞長は短くなっている感はあり、臨時駐車場を開設し、渋滞緩和に対する一定の効果があると判断している。もう少し、臨時駐車場内の配置を整理し、効果的な車両を誘導することが必要では。臨時駐車場の役割は重要であると認識しており継続的な運用を希望する。
- 1000円での検証を踏まえ市場の本体駐車場の料金改定を検討するのも良いが、もともと市場関係者や買い出しの方を対象とした駐車場であり、観光客用の駐車場ではないことから、市場関係者はきちんとケアする必要がある。

3. 今年度の社会実験について

各担当分野について、木村大委員はじめ関係者より資料に基づき説明の上、議論

- 目的は①水際線の利活用②魅力的な滞在時間の創出③各エリアの将来の検証④回遊性の検証であり、8月末から10月の実施で検討中。実証実験の効果検証するためアンケートの実施も予定。今回議論したことを踏まえ、実際スタートする8月までは実行委員会側で検討する。
- 木製パレットやアドタワーなど通行に支障がないような配置計画とし、夜間に人が接触しないような工夫をすること
- 浜焼きは、火気の使用には十分気を付けること。また、風が強いので火の粉による火傷、ボードウォークへの落下等がないように配慮すること。（10月の土日の4日間とし予約制）
- 市場内の店舗から食材を購入し浜焼きするイメージであるが、いつでも食材が揃っているわけでもないの、よく業者と調整しておくこと。協力いただける店舗に事前にあたりをつけることも大事
- ベンチを置いてただ座ってもらうだけではなく、そこで飲食することが非常によい。カモンワーク内の店舗も協力してもらい飲食の提供も検討中。モバイルオーダー注文し提供する仕組み。対応していない店舗は、各店舗のメニューブックをまとめてシートに配布し電話で直接注文など
- 台風シーズンでもあるため、安全対策と管理体制を。特に設置物等による怪我等がないように配慮すること

4. 令和7年秋に向けた事業推進について

下関市イノベ課より資料に基づき説明の上、議論

- 海響館ライトアップとあるかぼーと岸壁の環境整備については、令和7年秋完成を目指し進めている
- 大噴水については、飛沫による塩害の懸念、規模や運用、コスト面等で様々な意見が出ており、設置を含め再検討が必要
- 3月の実験時においては、風速シミュレーションも行った上で地元へも説明に行っているが、やはり常設となることでの塩害を懸念する声が多く、この意見をどのようにクリアしていくかが課題
- 風速や風向きによる運用等は調整可能であるが、細かい飛沫粒子に対してどこまで検証し、どこまで合意をとっていくのか難しいところ。
- 完成すれば話題にはなるが、様々な課題が議論尽くされていない、周辺地域の理解が得られていないという状態で進めるのは危険である。
- 塩害問題もそうであるが、規模やコスト面、メンテナンスなどの運用なども含め懸念事項は整理していく必要がある。
- 日本を代表するウォーターフロントシティをつくと決め、アイデアを出して少しずつ進んでいるが、市民の理解を得るプロセスが必要では。

以上